

朱鷺メッセ連絡デッキ落下事故第5回調査委員会

委員長記者会見要旨

平成 15 年 10 月 5 日

17:50 ~ 18:10

1 委員長会見要旨

今日の委員会では崩壊のメカニズムと情報公開について議論した。

崩壊のメカニズムについては、提案されている解析モデルにより追跡ができるかどうかの検証を行った。信頼できる解析モデルを作るのに時間がかかるが、それが確立すれば崩壊メカニズムの検証はすぐできる。

情報公開については積極的に進めることとした。委員会の審議内容で結論の出たものはホームページに掲載することとする。また、関係者等外部の方々が持っている情報で出して頂けるものがあれば、委員会として受け入れ、議論のうえ判断して使わせて頂くこととした。

2 質疑

Q 情報公開に関して、「委員会で受ける」とはどういうことか。

A 解析結果とか実験結果があつて、委員会に提供したいという場合に、その内容を委員会で議論し、事故調査の資料として使えるものは使わせて頂くということである。

Q 構造計算書も公開するのか。

A 調査中の構造計算書を出すことはできないが、構造物の形式、部材断面、材料特性等の情報は公表する。破壊状況の写真も併せて公表する。

Q 県議会の際には、外部からの声を避けたいと言っていたが、方針転換か。

A (武藤港湾空港局長)

転換ではない。県議会で議論になったのは、委員会に参加したいとか、自分たちで調査するので資料を提供願いたいとかの話である。委員会では、一定のものは隠さずに出して行くこととしたが、それを明らかにしたということである。写真とか構造物の基本的情報は出して行く。

また、情報の提供を一方から受け他方からは受けないということではなく、全部受け取って委員会の中で確認していくということである。

Q 知事は阪神大震災の例を出して、結局、外野の声は間違っていたと話していたがどうか。

A 方針の転換ではない。委員会に参加したいとか、自分たちで独自に調査するので資料を提供願いたいというものについてはお断りする。

- 私どもが調査して、出しても良いものを判断し公開して行くということである。
- Q 一部の協会団体が独自調査や調査委員会の傍聴の希望を断られた経緯があるがどうか。
- A 委員会はフリーなディスカッションでやっているなので、その結果だとか、基礎になっている資料等は出す。外部の人が計算したいなら、それに必要なデータを隠す必要はない。
- Q なぜ情報を収集したいのか。
- A 独自に実験している人もいて、それらの結果を集約したいためである。
- Q 信頼できる解析モデルができれば検証できるとの話があったが、うまく進んでいないから情報を集めているのか。
- A そういうことではない。実験データ等を持っているところもあるので、それを委員会で検討したいということである。
- Q 計算できるデータとは何か。
- A 部材の断面寸法や材料データである。
- Q 解析モデルのことか。
- A (部材の断面寸法や材料データなどの)事実が分かれば構造計算はできるので、解析モデルそのものではない。
- Q 開催時間がいつもより1時間50分延びた理由は何か。
- A 議論していたので、時間は気にしていなかった。
- Q 手間取ったテーマがあったのか。
- A 資料が山ほどあり、解析結果の検証に時間を要した。解析モデルが違っていると崩壊メカニズムの検証ができないので、議論しながら検討を行っている。
- Q なぜ、たわみが出たのか。
- A 1回目及び2回目のジャッキダウン時の状況を再現できる解析モデルを検討している。たわみの値が実際と似たようになるまで来た。しかし、2回目のジャッキダウンについて少し違うところがあり、施工時の状況をより詳細に検討する必要が出ている。
- Q 報告書のP6の「構造計算書が幾種類かある」とはどういうことか。
- A 当初のモデルで斜材ロッドの位置が違うままで計算したものがあり、それを修正して計算し直したものがあった。それらが時期的に短い期間の中で提出されたようで、多少混乱があったようだ。
- Q 11月下旬を目指しているが多少遅れるのか。
- A 解析を進めながら、再度、設計者・施工者に確認することも想定しているので、その時間が必要となる。多少、1・2週間ズレ込むこともある。
- Q 12月になることもあるということか。
- A 極力作業を進めてはいるが、そういう状況もあり得る。
- Q 次回はいつか。
- A 10月25日である。内容は、解析で問題になっているところを詰め直す。

(以上)